

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

大学礼拝

WORSHIP SERVICE

2010年
新入生歓迎号



CHAPEL NEWS

第112号

巻頭言

「大学礼拝」



宗教部長
佐々木 哲夫

大学礼拝は、聖書が神の言葉として公に語られる時であり、また、東北学院大学が神の前で自らの本質的意義を再確認する時です。「礼拝から出発して礼拝に帰る」が東北学院の基本姿勢です。それゆえ、余った時間ではなく一番良い時間を礼拝に捧げています。大学礼拝の概要についてご紹介いたします。

チャイムが礼拝の時を告げると礼拝堂からオルガン前奏の音が響いてきます。礼拝堂の最前列から順に着席して下さい。毎日行われている礼拝の始まりです。心を静め礼拝司会者の言葉に耳を傾けて下さい。

〈讃美歌〉礼拝参加者（会衆）が讃美歌を歌うようになったのは、ルターの宗教改革からです。それ以前は聖職者だ

けの特権でした。讃美歌の歌詞を味わいながら声高らかに歌って下さい。

〈聖書〉聖書の構成は、前半四分の三が旧約聖書、後半四分の一が新約聖書です。それぞれに頁数が付されており、その中で、例えば、五〇頁の場合、旧約聖書が新約聖書かを指定しなければなりません。旧約聖書の言語はヘブル語、新約聖書はギリシヤ語です。諸国の言葉に訳され、礼拝に使用されるようになるのは、宗教改革以降のことです。日本語訳の聖書の普及は最近のことです。

〈説教〉神の言葉がこの世に対して公に宣言される時です。話し手の経験や思想を披露する講演と根本的に違います。聖書の言葉は、歩むべき道を照らしだ

すともしびとして私たちに臨みます。特に重要なことは、イエス・キリストの十字架に表わされた神の愛や救い（福音）が告知されることです。

〈祈り〉礼拝司会者は、説教の言葉だけでなく、神の恵みや平安や祈りを執り成します。祈りの最後の「アーメン」は、英語やギリシヤ語やヘブル語に共通して見出される言葉で、「真実です」の意味です。祈りを共有するしるしとして、会衆の皆さんも最後に「アーメン」と唱和して下さい。

〈頌栄〉神の栄光をたたえる短い讃美歌です。頌栄の後、黙祷を捧げます。オルガン後奏は「派遣」の意を込めて皆さんの退場時に奏します。

各キャンパスのメッセージ

Izumi

泉キャンパス

大学宗教主任

永井 義之



新 入生の皆さん、入学おめでとうござい
ます。

大学生としての歩みがいよいよ始まります。高校までの間、さまざまな制約があつてなしえなかつたことをこれからはやるぞと意気込んでおられることと思います。是非、自分の頭で考え、自分らしいスタイルを確立していただきたいと思ひます。大学はそのような生き方をするのに適した環境です。受験体制の中ではあまり考えることなかつたこと、たとえば古典的テーマである、人生とは何かとか、人間とは何かとか、世界はどうなつてゐるのか等々考えはじめればいくら時間があつても足りない大問題が次々と思ひ浮かぶことでしょう。大学での諸設備、教師や友人とのかわりなどを大いに利用して自分という人間を確立する充実した大学生活を送られるように声援をしたいと思います。礼拝の間も自分を振り返り、皆さんがいるいる考えるヒントを得る場として積極的に活用してください。

Tagazyo

多賀城キャンパス

大学宗教主任

北 博



新 入生の皆さん、ご入学おめでとうござい
ます。

東北学院大学では、毎朝一限目と二限目の間に、多賀城、土樋、泉の三キャンパスのチャペルで礼拝が行なわれてゐます。毎日の礼拝は、東北学院大学の教育の重要な一環です。学生生活にめりはりををつける意味でも、授業のある日は毎朝きちんと出席するよう心がけてください。礼拝中は、マナーにも気を付けましょう。チャペルに入る前に携帯の電源を切り、チャペルに入ったら帽子を取り、私語を慎んで下さい。それから、工学部の在校生の皆さん、今年が多賀城キャンパス担当の大学宗教主任が一新します。月曜日北、火曜日日出村、水曜日村上と原口担当です。まだ勝手が分からないので、お互い戸惑つこともあるかと思いますが、今まで通り何かあれば相談に来て下さい。聖書研究会については、後ほどお知らせします。是非御参加下さい。それでは、有意義な学生生活を送って下さい。

Tsuchitoui

土樋キャンパス

大学宗教主任

佐々木 勝彦



新 入生の皆さん、入学おめでとうござい
ます。

三年生の皆さん、土樋キャンパスへようこそ。本学には三つのキャンパスがあり、それぞれかなり個性的な雰囲気をもつてゐます。四年間の在学中に、是非一度は各キャンパスを訪問してみてください。きっと新たな発見があるはずです。土樋キャンパスの美の原点は、何と言っても、正門から見える三つの石造りの建物でしょう。正門が本館、左手が旧図書館、そして右手が礼拝堂です。これを見るだけで、本学の目指している人間像が分かります。それは、教育、研究、そして礼拝が一体となつて初めて誕生する「新しい人間」です。「礼拝」、それはこの「新しい人間」に触れるときです。教室で学び、体験を通して考えたことが、自らの存在根拠に結びつく不思議な味わい、新たな勇気を得るときです。それは、限りなく可能性に満ちたチャレンジのときです。是非トライしてみてください。

キリスト教 Q & A



1 キリスト教大学って何？

近代日本の教育の歴史を振り返って見ると、欧米列強に伍するため、国民教育の目標は富国強兵にありました。特に大学を設置することによって有能な官吏を養成することに第一の目標が置かれました。ですから、国立の大学は全て男子のみで、そこで専門的な職業訓練、学術研究がなされました。これに対し、私塾的なものからスタートした私立学校は官立校がまだ目を向けていなかった幼児教育、女子教育等にパイオニア的役割を果たしました。高等教育に関しても、私学は専門学校という形で「教養」即ちリベラル・アーツを基本とする教育が行われました。

明治十三年、「訓令十二号」という文部省通達が出され、キリスト教学校に致命的打撃を与えました。これは、宗教教育、宗教儀式をすれば文部省認可の学校と認めないというものでした。従来公認の「学校」では上級学校進学資格と徴兵猶予の特典が与えられていましたから、それらを放棄しても聖書の教育と礼拝を捧げる道をキリスト教学校は選びとったのです。

戦後、新制大学がスタートするとキリスト教学校も制度を整え、キリスト教大学が公教育の一端を担うようになりました。これは特に戦後の日本国憲法を基礎に置き教育基本法において明示された「人格の完成を目指し、平和的な国家及社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成をする」という理念の実現にキリスト教大学こそが応えようとの確信によるものです。

(永井 義之)

2 礼拝で学生番号を読み取るのは何のため？

東北学院大学の高等教育機関としての営みは、人間の知恵や力量だけでなく、神の愛とめぐみによって導かれていると認識されています。そのような自己認識は、大学設置の基本理念であり、また、東北学院創立以来二三年の歴史と伝統の中で保持されてきた建学の理念です。大学礼拝は、そのような東北学院大学固有の価値観、換言するならば、東北学院の建学の精神を具体化する公の行事です。しかも、礼拝は、仙台神学校創立以来、毎日行われる営みの一つになっております。

東北学院大学は、余った時間ではなく、価値を見いだした対象にふさわしい最良の時間をもって礼拝を執行しています。それ故、その時間に対し、教育機関としての責任があります。また、東北学院大学の学生は、大学礼拝に参加するはずであると期待されています。即ち、大学礼拝に参加することは、東北学院大学の学生の特権であり、また、東北学院のアイデンティティそのものなのです。

東北学院大学は、大学礼拝に対し無関心ではありません。見いだした価値にふさわしく、私達の熱情や努力を捧げたいと願っています。それ故、今、どのような大学礼拝が行なわれているかをきちんと把握すること、例えば、学生番号の読み取りで大学礼拝出席の状況を把握することは、自己評価の責任を担う第一歩でもあると考えています。皆さんの大学礼拝への参与は、見過ごされるのではなく、確かに覚えられているのです。

(佐々木哲夫)

3 キリスト教はなぜ必修なの？

東北学院大学へ入学した皆さんが、毎日の大学礼拝に出席し、キリスト教を学ぶことは、東北学院大学の学生であることの証しであり、またこれを前提条件として大学に入学してこられたのです。そこで、キリスト教が必修なのは、本学の方針であるとまず説明できます。

しかし、一番目に、なぜキリスト教が必修なのかは、もっと基本的な理由があります。

そもそも日本の教育制度は、明治維新の後に、キリスト教の世界から産み出された西洋近代教育を学び、これを採用してきましたので、この教育制度の生みの親たるキリスト教について学ぶことは、教育、学問の根底をなす学びであると説明できます。

私達の人生と社会の根本に神との関係によって理解され、産み出されてきた様々な制度や構造があることに気づいているでしょうか。例えば、法治国家としての規律、秩序、契約という概念や、さらに民主主義や資本主義、教育制度、医療・福祉制度、あらゆる領域がキリスト教世界から生み出されて発展してきたものであることを否定することができないのです。そこで、私たちは、広くキリスト教の教えとその世界観を学ぶことによって、私たち自身と現代社会を豊かに学ぶことができるのです。そういう点で、皆さんも、このような視点から礼拝を重んじ、キリスト教を積極的に学んでいくって欲しいと思います。

(野村 信)

第5回「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ



大学オルガニスト

今井 奈緒子

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンをを用いて指導します。

単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能ですし、受講場所も開講時間に合わせて、在学中のキャンパスに関係なく希望することができます。

◇受講資格

・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること
・レッスン、練習に真剣に取り組む意思のあること

◇対象

本学に在籍する学生(所属学部、学部生・大学院生を問わず)

◇内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ(個人またはグループレッスン形式)

ガイダンスと修了演奏会を実施します。

◇場所

土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂

◇受講料

年間 一五、〇〇〇円

◇期間

五月〜十二月(レッスンは月二回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)

◇募集人数

各キャンパスにつき若干名

◇講師

小野なおみ

(礼拝オルガニスト)

菅原 淑子

(礼拝オルガニスト)

今井奈緒子

(教養学部教授。大学オルガニスト)

◇ガイダンス開催日

受講希望の方は所属キャンパスに係わらず全員、五月十三日(木) 十六時に、泉キャンパス音楽研究室(礼拝堂二階。シラバス参照)前へお集まりください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせ、レッスンの相談、調整等を行います。出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください(022-1375-1185)。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます。ただ、場合がありますのでご了承ください。

編集後記

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。東北学院の学生として、ぜひ皆さんに心にとめて欲しいことがあります。本学はキリスト教大学です。学問をすることは全国の他の大学と変わりませんが、他と違うところは日々の礼拝が守られていることです。ここに特色があります。

他では得られないものを経験してくださることをお勧めします。

(NA)

二〇一〇年三月三十一日

千九八〇一八五一

仙台市青葉区土樋一丁目三番一号

東北学院大学宗教部

2010年度 礼拝オルガニストの皆さん

●東北学院大学オルガニスト●

今井 奈緒子

●東北学院大学礼拝オルガニスト●

阿部 和子	稲垣 玲子
大泉 真理	小野 なおみ
亀井 睦子	京極 扶美恵
坂上 芙美恵	佐々木 しのぶ
菅原 淑子	高橋 園子
長谷部 真理子	渡辺 真

